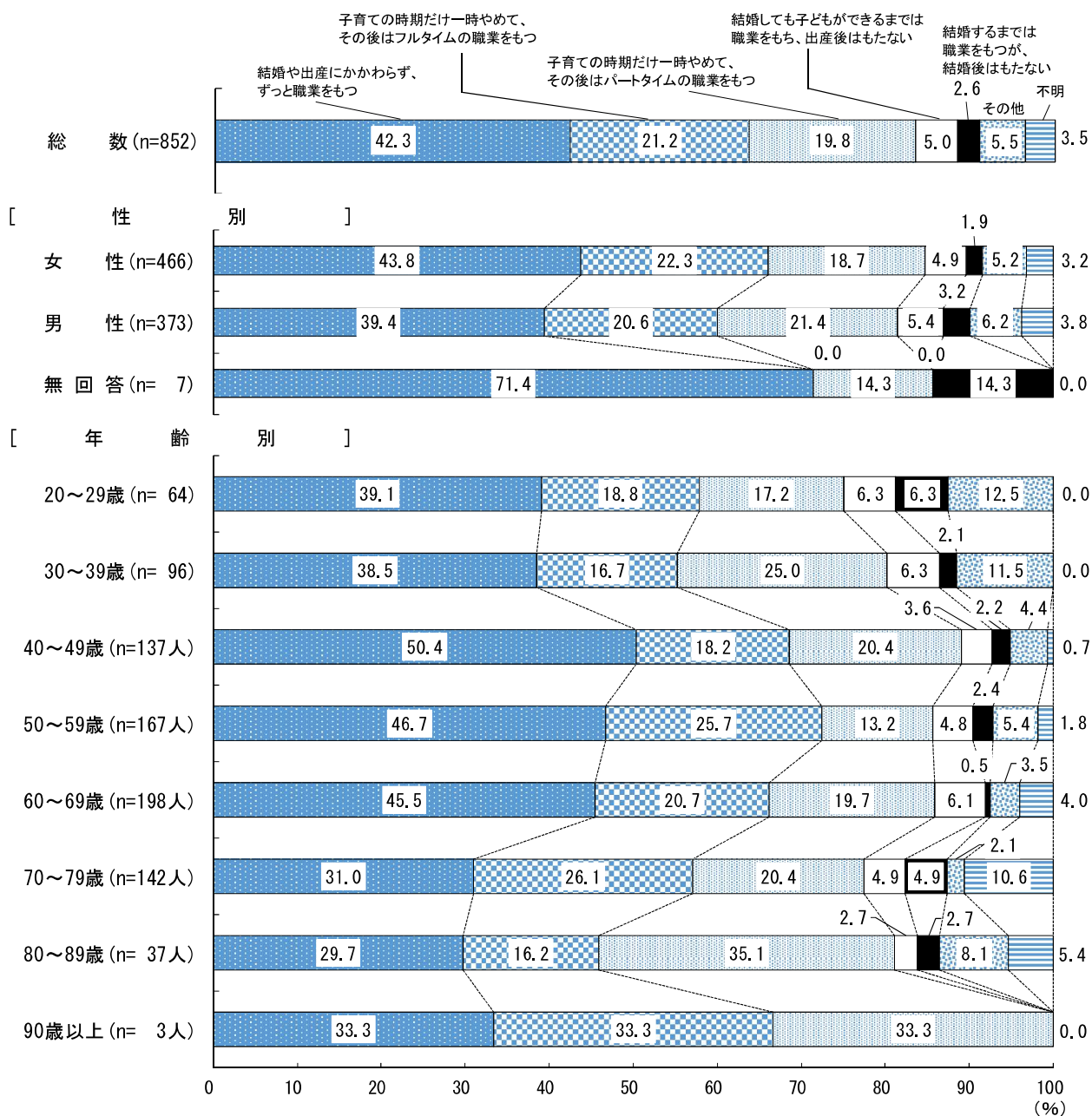


3 女性の活躍推進

問6 あなたが理想だと思う女性の働き方はどれですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

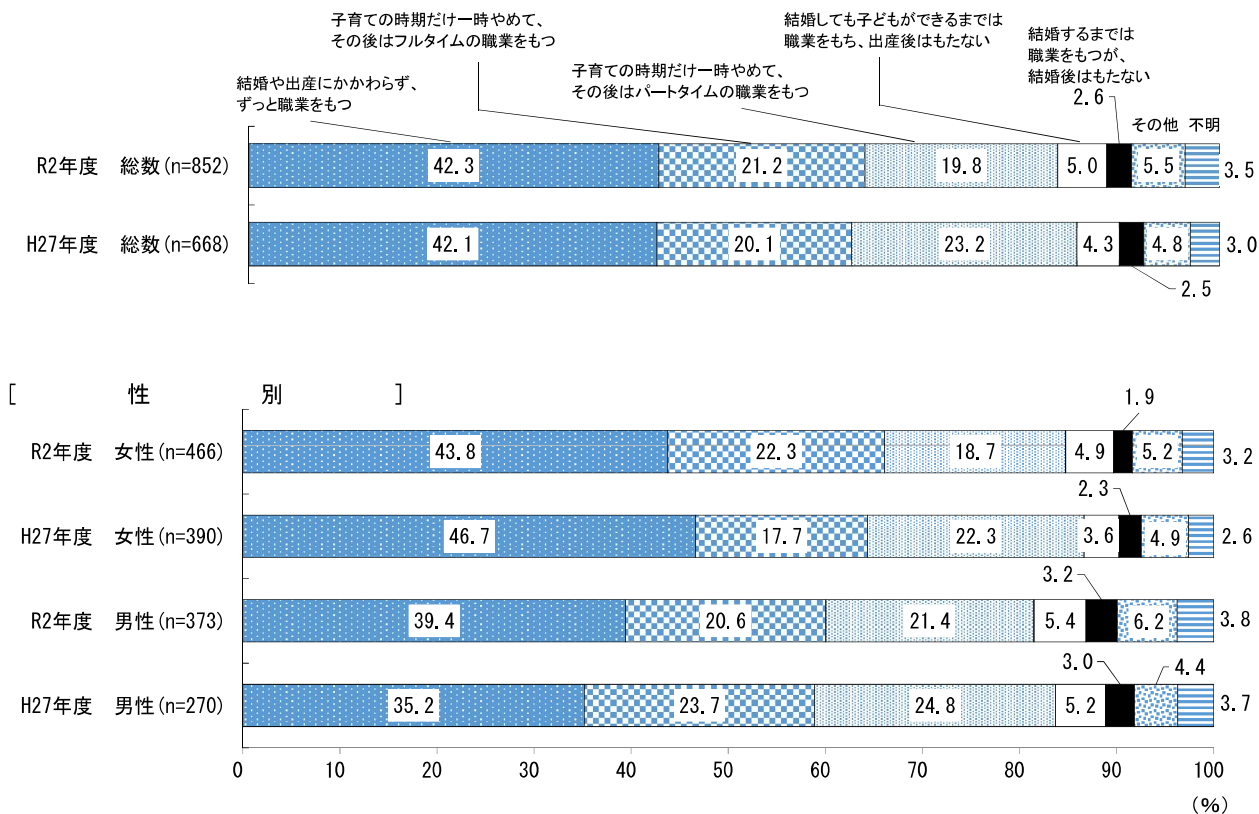
「結婚や出産に関わらず、ずっと職業を持つ」が42.3%で最も多く、次いで「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムの職業を持つ」が21.2%、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムの職業をもつ」が19.8%となっている。性別にみると、女性は前述と同様であるが、男性は「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムの職業をもつ」が2番目に多く、男女の意識に差がみられる。年齢別にみると、40歳代では「結婚や出産に関わらず、ずっと職業を持つ」が半数をしめている。

図6-1 女性の働き方の理想



前回調査と比較すると、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムの職業をもつ」が3.4ポイント低下している。性別にみると、女性は「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムの職業を持つ」が4.6ポイント増加しており、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムの職業を持つ」が3.6ポイント低下している。一方、男性は「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を持つ」が4.2ポイント増加しており、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムの職業を持つ」が3.4ポイント低下している。

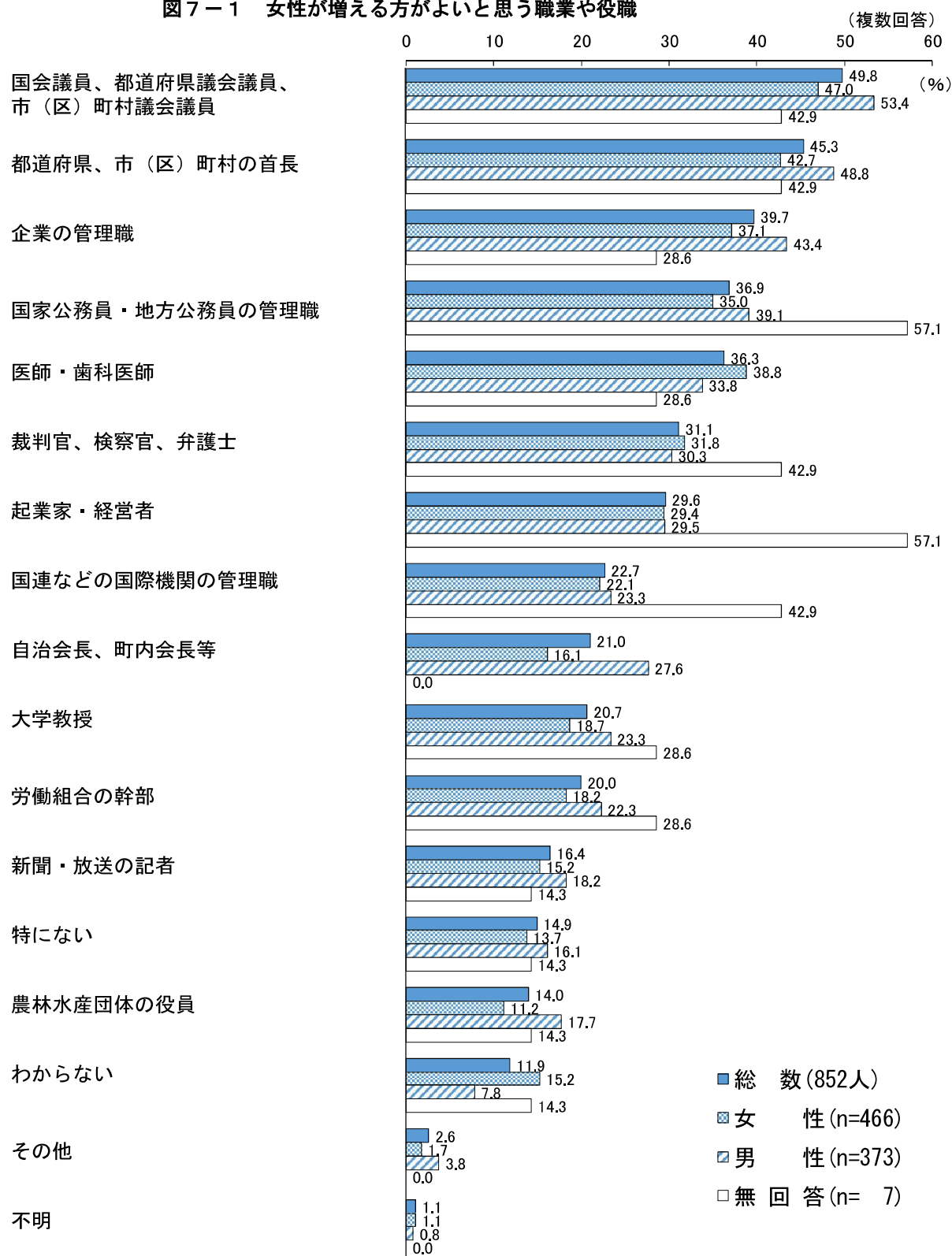
図6-2 女性の働き方の理想



問7 あなたが、次にあげるような職業や役職において、今後女性が増える方がよいと思うのはどれですか。あてはまるものを1～14の中からいくつでも選んで○をつけてください。特にない場合は15に○をつけてください。わからない場合は16に○をつけてください。

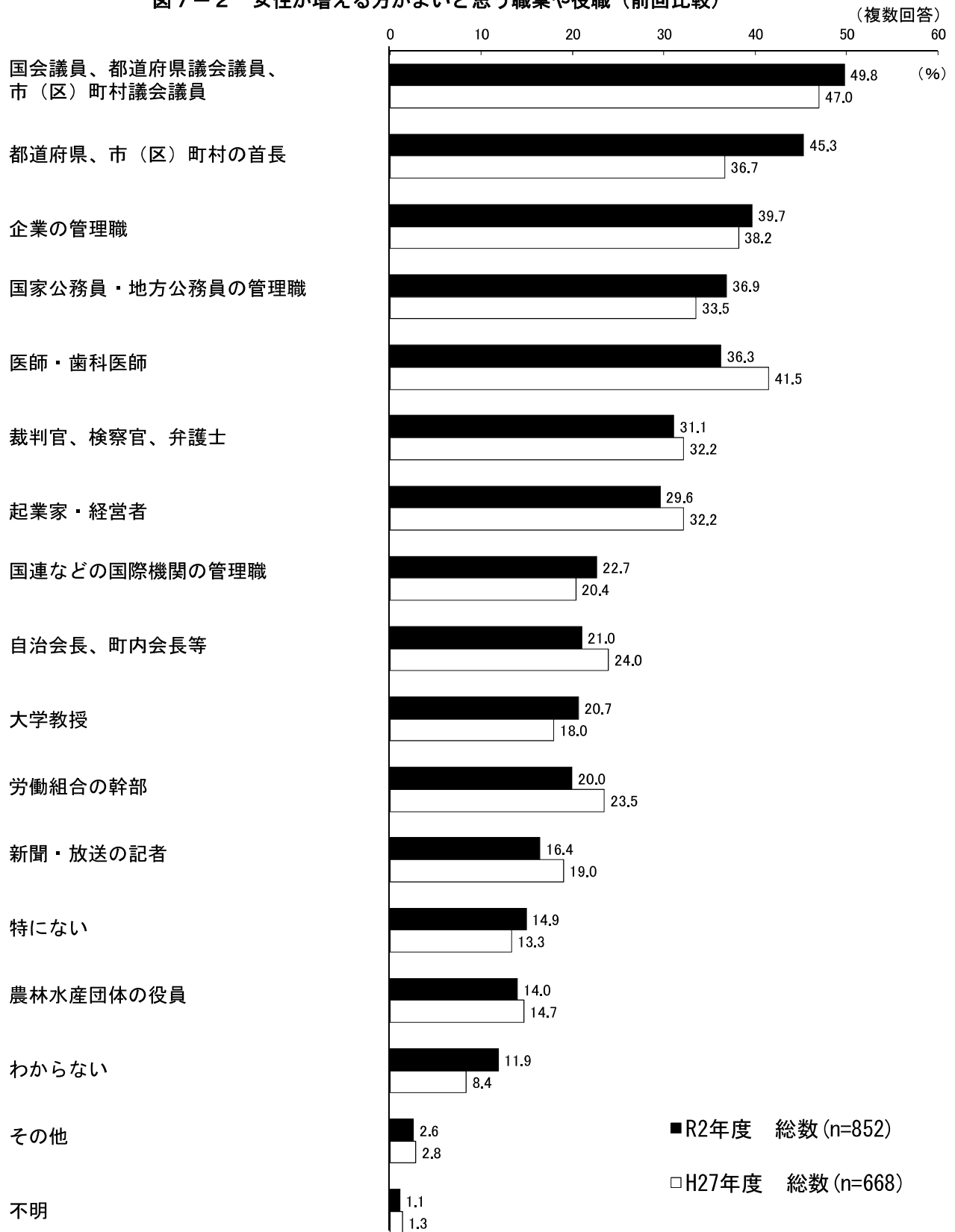
「国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」が49.8%で最も多く、次いで「都道府県、市（区）町村の首長」が45.3%、「企業の管理職」が39.7%となっている。性別にみると、男女共に「国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」が最も多く、次いで「都道府県、市（区）町村の首長」が多くなっている。性別にみると、女性は「医師・歯科医師」が3番目に多くなっている。

図7-1 女性が増える方がよいと思う職業や役職



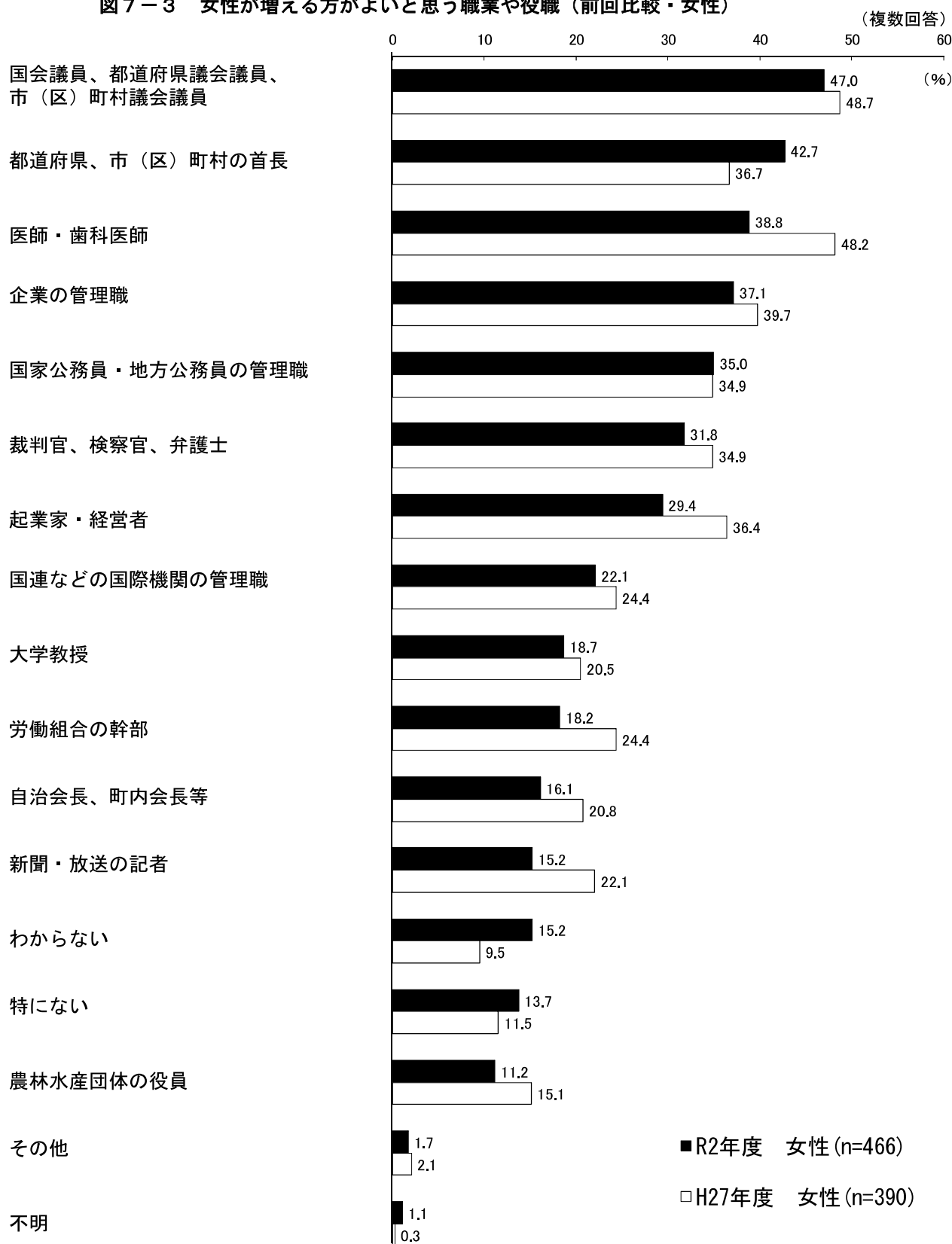
前回調査と比較すると、前回4番目に多かった「都道府県、市（区）町村の首長」が、今回2番目に多くなっている。

図7-2 女性が增える方がよいと思う職業や役職（前回比較）



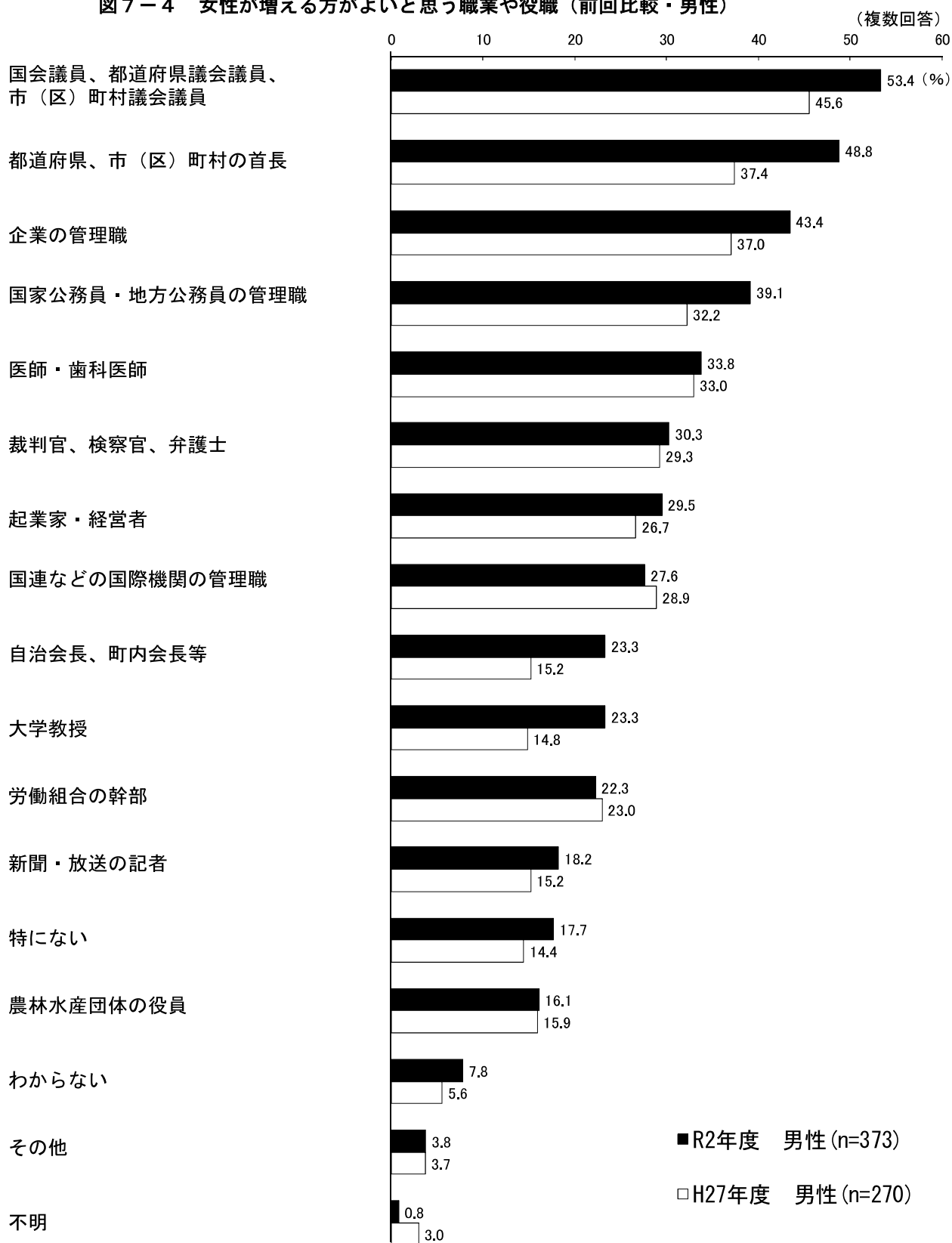
前回調査と比較すると、前回4番目に多かった「都道府県、市（区）町村の首長」が、今回2番目に多くなっている。

図7-3 女性が増える方がよいと思う職業や役職（前回比較・女性）



前回調査とほぼ同様の傾向となっているが、「都道府県、市（区）町村の首長」が11.4ポイント増加している。

図7-4 女性が増える方がよいと思う職業や役職（前回比較・男性）

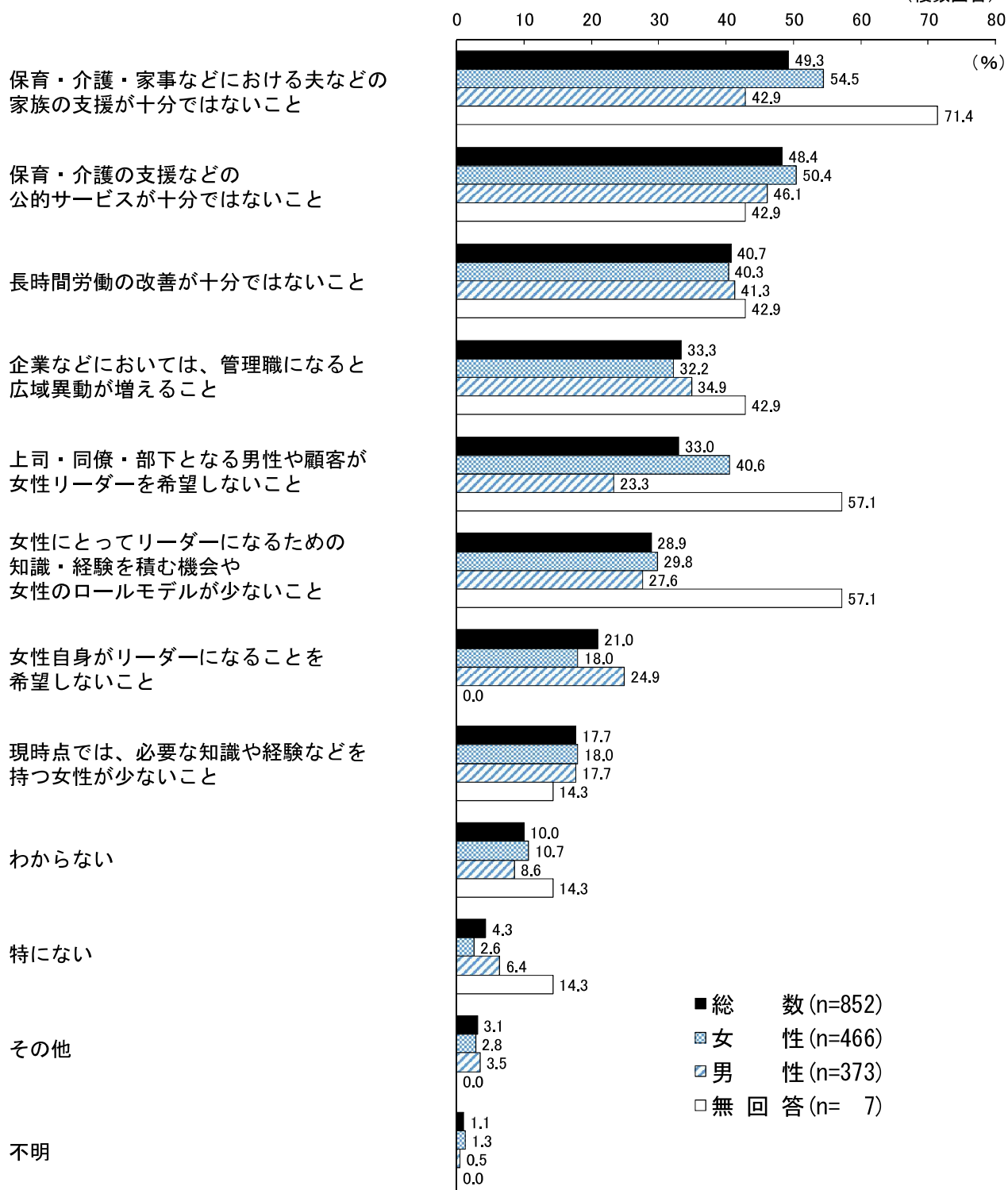


問8 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。あてはまるものを1～9の中からいくつでも選んで○をつけてください。特にない場合は10に○をつけてください。わからない場合は11に○をつけてください。

「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」が49.3%で最も多く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が48.4%、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が40.7%となっている。性別にみると、女性は「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が3番目に多くなっている。男性は「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が最も多くなっている。

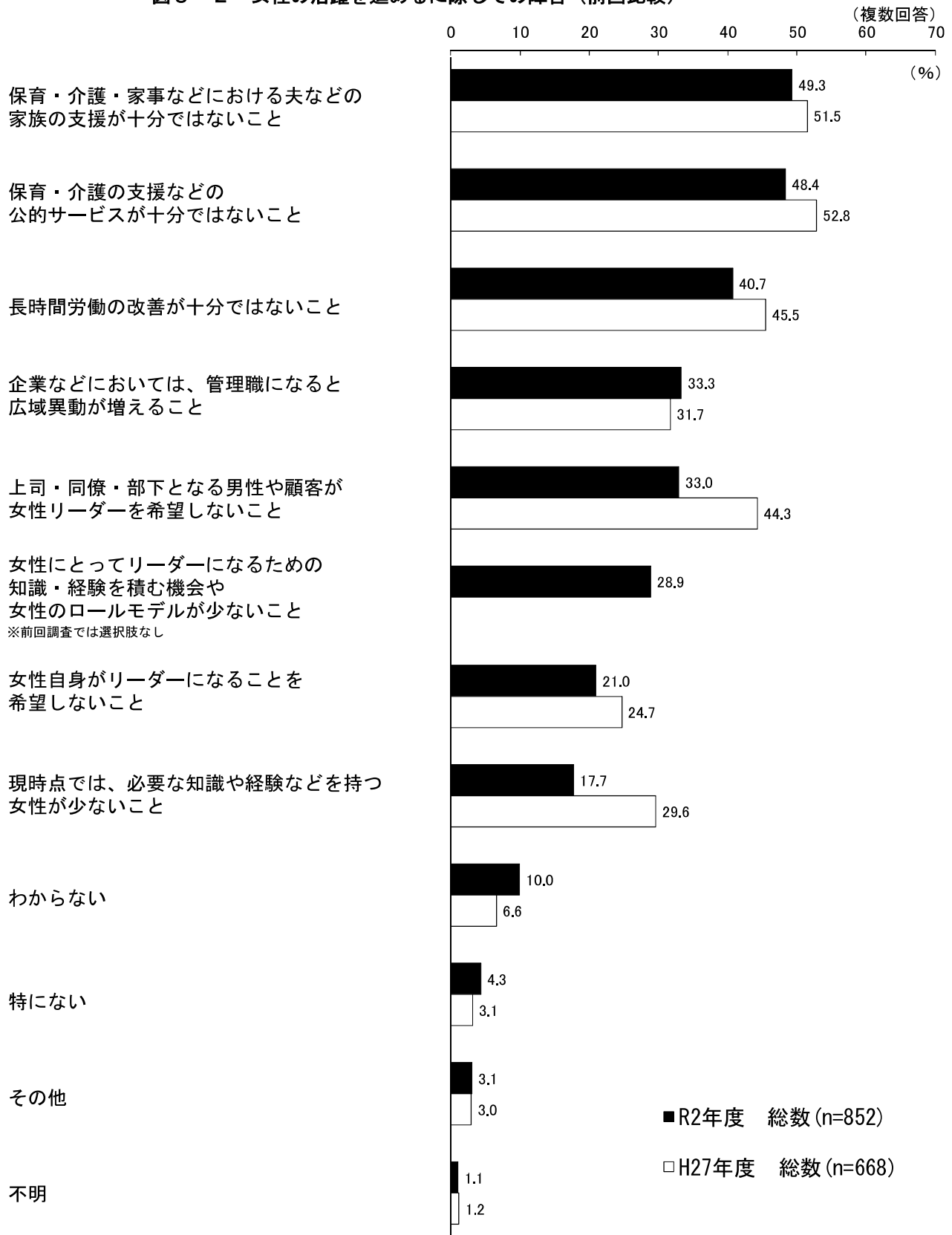
図8-1 女性の活躍を進めるに際しての障害

(複数回答)



前回調査と比較すると、前回2番目に多かった「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が、今回最も多くなっている。

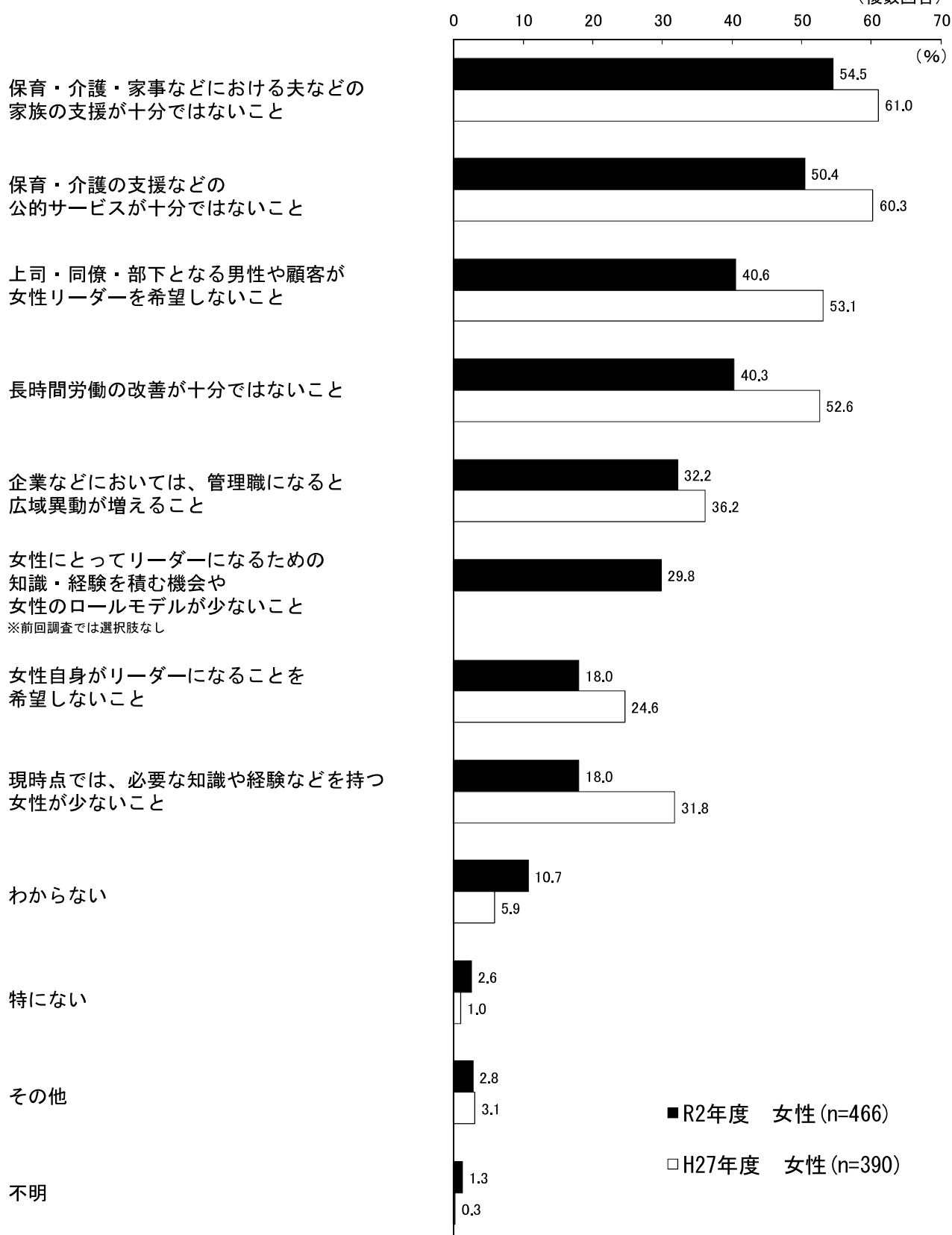
図8-2 女性の活躍を進めるに際しての障害（前回比較）



前回調査とほぼ同様の傾向となっている。

図8-3 女性の活躍を進めるに際しての障害（前回比較・女性）

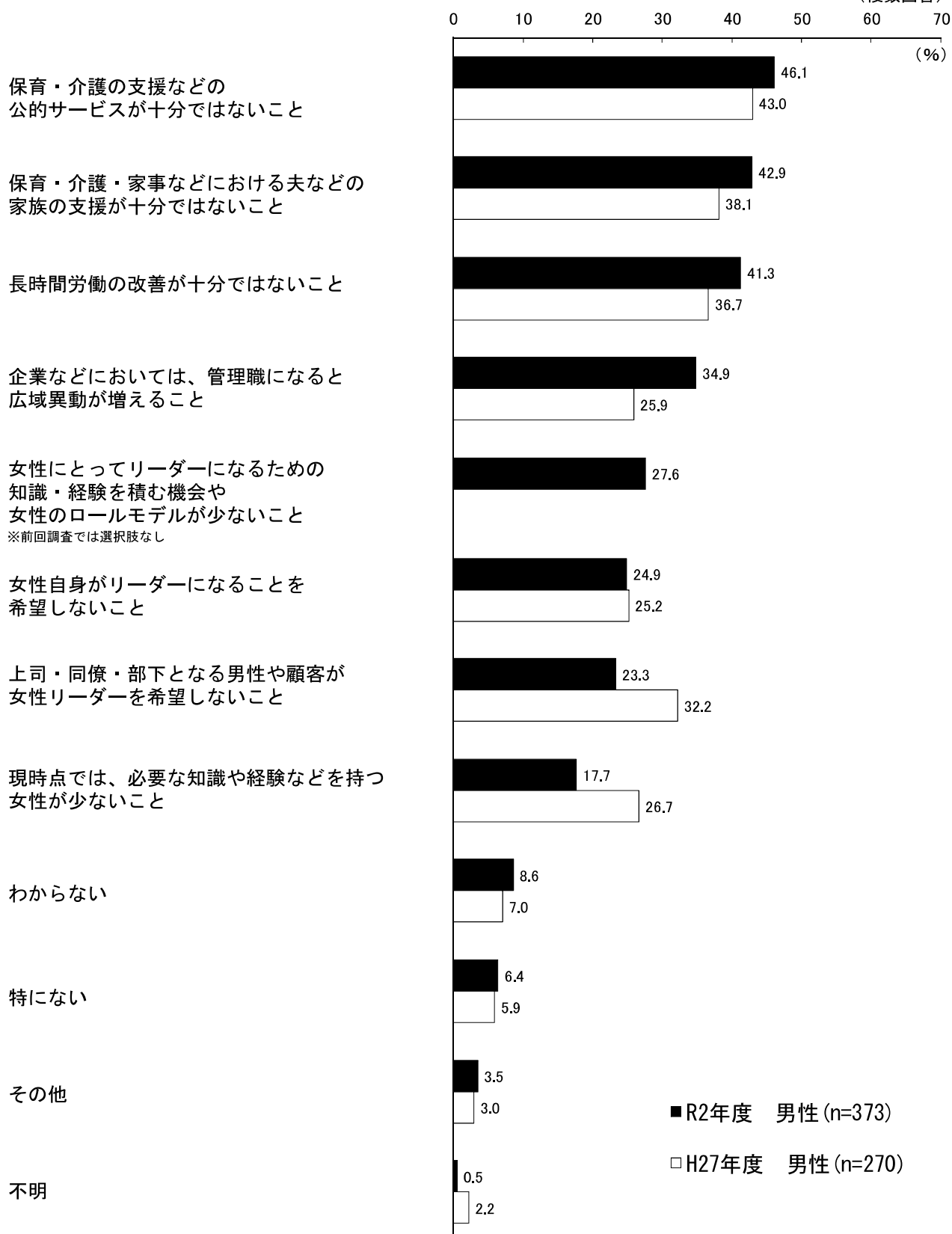
(複数回答)



前回調査とほぼ同様の傾向となっている。

図8-4 女性の活躍を進めるに際しての障害（前回比較・男性）

（複数回答）

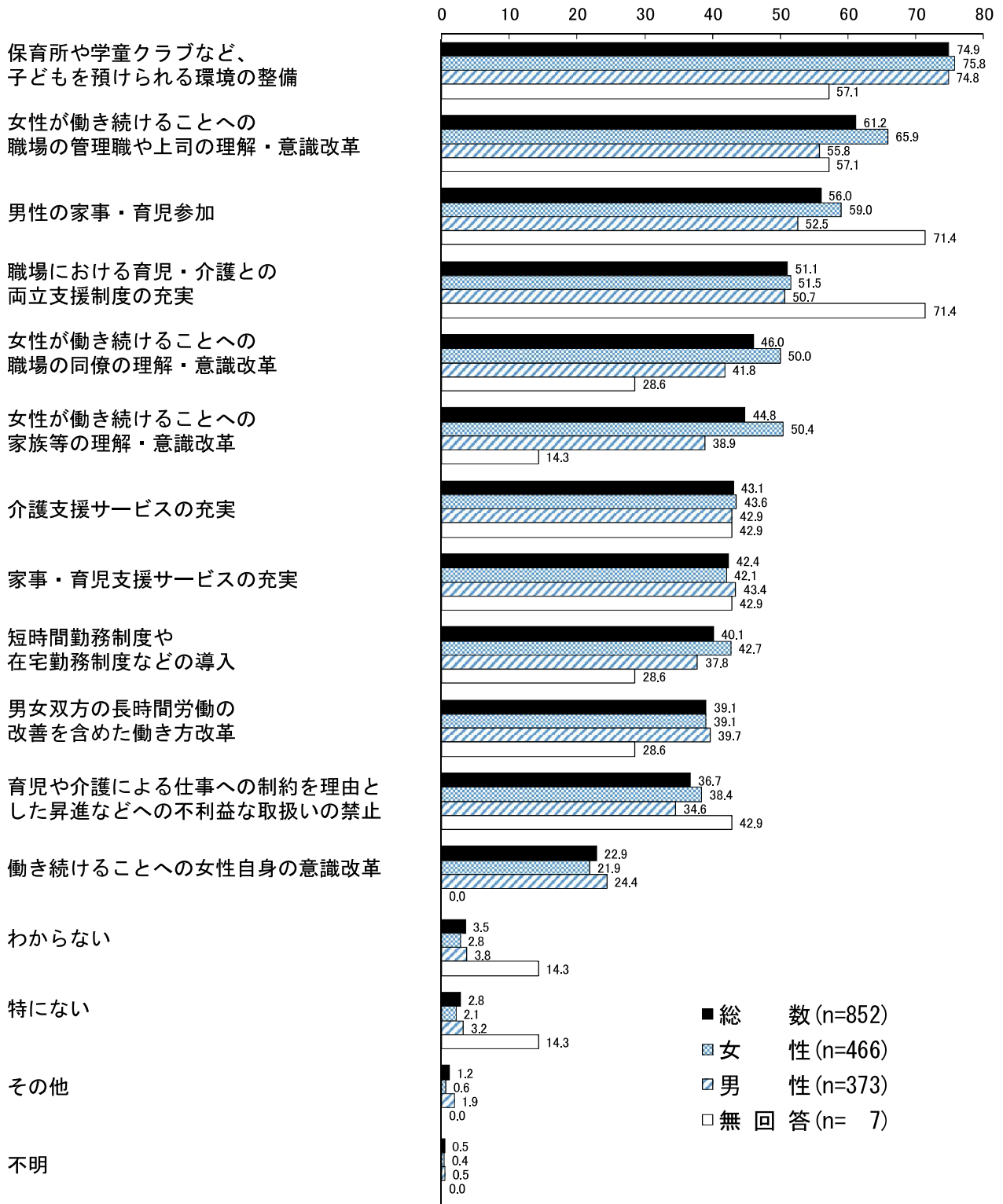


問9 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。あてはまるものを1～13の中からいくつでも選んで○をつけてください。特にない場合は14に○をつけてください。わからない場合は15に○をつけてください。

「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が74.9%で最も多く、次いで「女性が働き続けることへの管理職や上司の理解・意識改革」が61.2%、「男性の家事・育児参加」が56%となっている。性別にみると、女性は「女性が働き続けることへの家族等の理解・意識改革」が男性より11.5ポイント多くなっている。

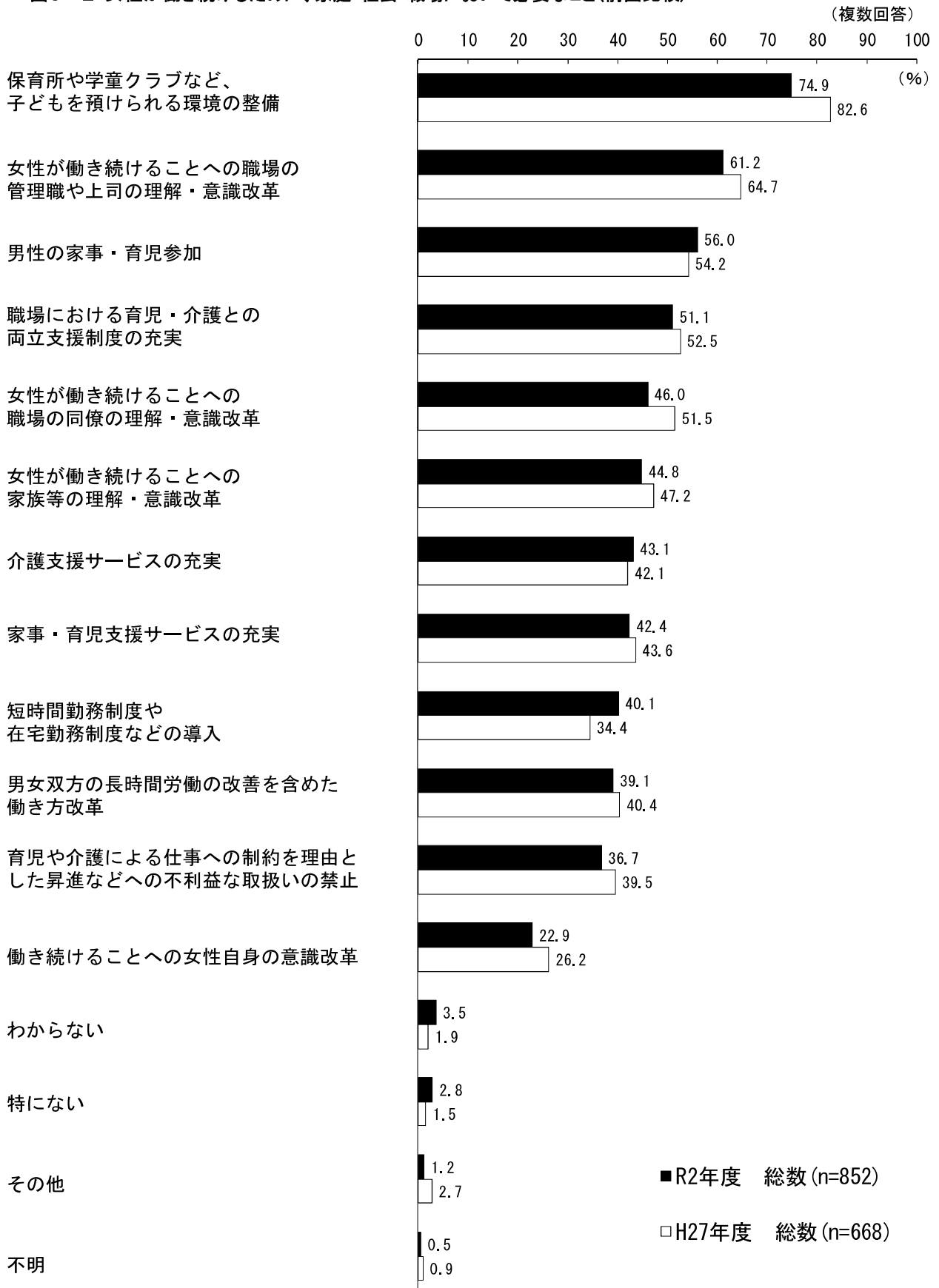
図9-1 女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと

(複数回答) (%)



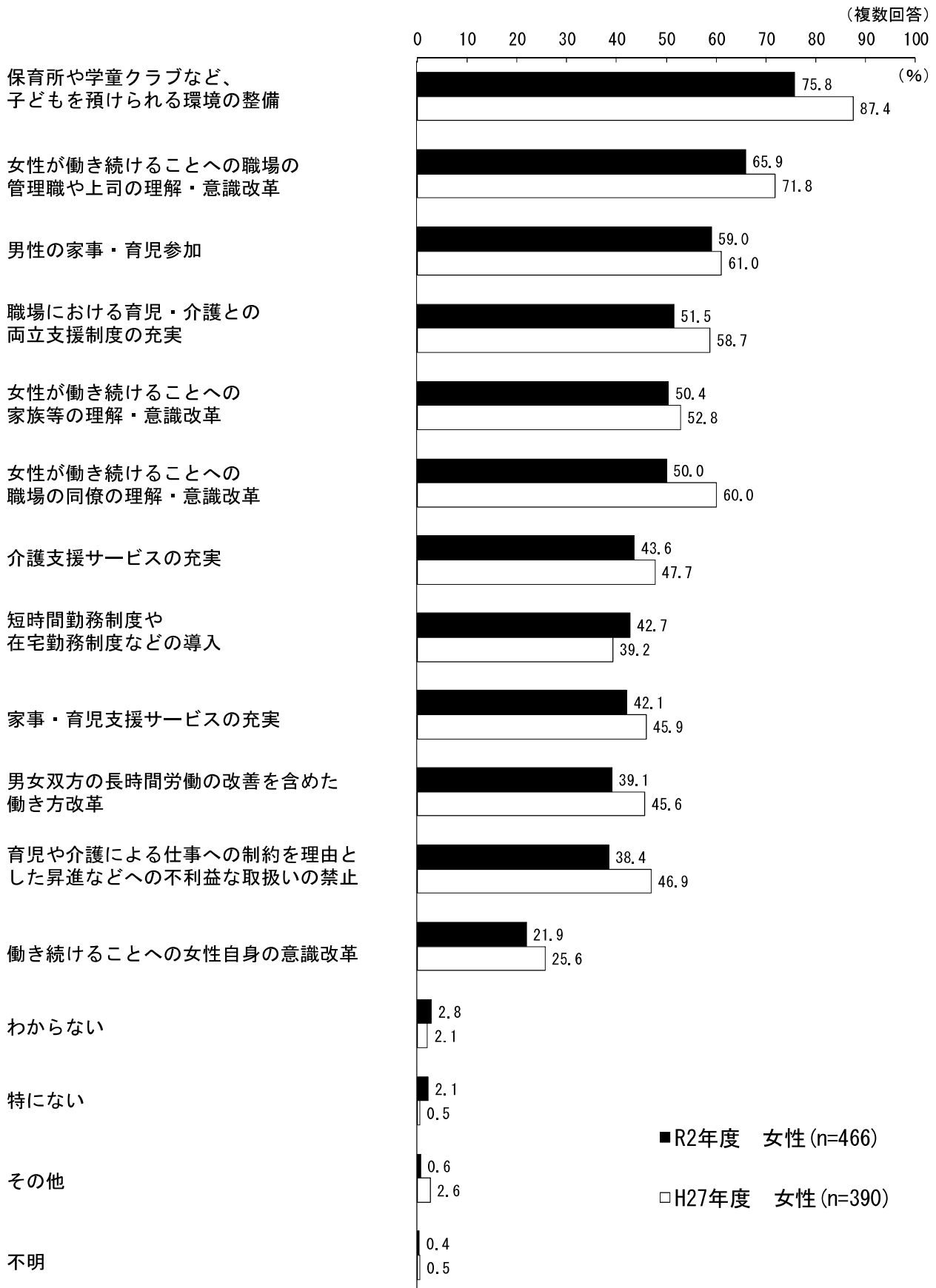
前回調査と比較すると、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」が5.7ポイント増加している。

図9-2 女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと(前回比較)



前回調査と比較すると、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」が3.5ポイント増加している。

図9-3 女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと(前回比較・女性)



前回調査と比較すると、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」が10ポイント増加している。

図9-4 女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと(前回比較・男性)

